

都市観光の定量比較

—ベルリン・ミュンヘン・ハンブルクとの比較におけるパリ—

Le tourisme à Paris en comparaison avec Berlin,
Munich et Hambourg en chiffres

山田 徹 雄
Tétsuo YAMADA

要 旨

フランスの都市観光におけるパリの意義は卓越している。本稿は、フランスにおいて都市観光を代表するパリとドイツの3都市を比較分析した。その結果、フランスの観光施設雇用のおよそ14%がパリに存在し、パリを含めたイール・ド・フランスにおいてそれは30%以上を占めていること、一方、ドイツの都市観光においてはベルリン、ミュンヘン、ハンブルクなどが多極分散的に地域の中心を形成していることが明らかとなった。

これらの都市に共通するのは、外国人旅行者の比率の高さである。そうした中で、いずれにおいても、日本人旅行者の著しい減少が見られた。

はじめに

本稿は、ヨーロッパにおける都市観光の代表と考えられるパリについて、「パリ観光・会議局」(Office du Tourisme et des Congrès de Paris) が刊行する『パリ観光の経済的考察——パリ観光・主要数値——』(2006年～2009年)⁽¹⁾および「パリ観光・会議局」の『月報』⁽²⁾に依拠して、パリ観光の状況を定量的に考察し、これを踏まえてベルリン、ミュンヘン、ハンブルクというドイツ都市観光の中心地との比較検討を行う。

1. パリ観光

さしあたり、パリ旅行者に関する既存のアンケート調査によって、パリ観光のおよその見取り図を描いた後、宿泊者の動向、交通手段を解析する。

1-1. パリ旅行者に関するアンケート調査 (2008年度)

「パリ観光・会議局」は、パリを訪れるヨーロッパからの旅行者を対象に、パリの街角において対面式調査を行ってきた⁽³⁾。

この調査は、対象がヨーロッパ人であったという限定はあるが、パリ旅行者の一般的傾向を表すと考えられる。

このアンケート調査結果を集約すると、[表1] のようになる。

ビジネス旅行者、休暇旅行者に共通する特徴は、

- (1) パリへの旅程においては、スペイン人を除いて鉄道利用者が一般的であること
 - (2) 市内を移動する交通手段においてメトロが圧倒的な比率を占めていること
 - (3) 訪問・見学場所に美術館・建造物およびバー・パブが含まれていること
 - (4) モード製品を購入していること
- である。

ビジネス旅行者に固有の特徴は

- (1) 食事・宿泊費、観光費用に休暇旅行者を上回る支出をしていること
 - (2) 単身でパリを訪れ、ビジネスとともにナイトライフを楽しみ、美術館なども訪問していること
 - (3) 当然のことであるが、働き盛りの年齢であること
- などである。

これに対して、休暇旅行者においては

- (1) 年齢の若いカップルが主流であること
 - (2) ビジネス旅行者と比較してすべての支出が少ないこと
 - (3) 美術館、バトール・ムシュ、バーなど定番のパリ観光を行っていること
- である⁽⁴⁾。

なお、買い物の予算については、スペイン人、ベルギー人の気前のよさとオランダ人、ドイツ人のけちが対比され特記されている⁽⁵⁾。

都市観光の定量比較

表1 パリ観光客に関するアンケート調査

アンケート項目	ビジネス旅行者 (les touristes Affaire)	休暇旅行者 (les touristes Loisirs)
年齢層 (classes d'âge)	35～54歳 (65.7%)	18～24歳 (35.5%)
旅行人数	単身 (71%)	カップル (36.6%)
パリへの旅程	列車 (80.2%) *スペイン人では航空 (85.4%)	列車 (69%) *スペイン人では航空 (62.5%)
旅行の動機	仕事の約束 (54%) セミナー (23%)	美術・博物館、建造物の訪問 (65%) 買い物 (45%)
旅行プランニング	自分自身 (46%) 会社 (46%)	自ら手配 (92%)
リピーター比率	19.8%	9.3%
ホテルの等級	2星 (42%)、3星 (44%)	2星 (54%)
一泊あたりの宿泊費	117.1ユーロ	79.8ユーロ
夕食予算額	外国人 (29.1ユーロ) フランス人 (24.5ユーロ)	外国人 (23.7ユーロ) フランス人 (20.6ユーロ)
見学・訪問地	ビジネス以外に バブ、バー (53%) 美術館・建造物 (42%)	美術館・建造物 (77%) バブ、バー (55%) バトール・ムシュ (22%)
見学・観光予算額	72.4ユーロ	48.9ユーロ
パリにおける移動手段	メトロ (83.3%) タクシー (38.4%)	メトロ (93.2%) タクシー (10.1%)
買い物	ディスク (des disques)・書籍 (47%) 婦人物衣類・靴 (30%) 同紳土物 (22%)	婦人物衣類 (54%) ディスク (des disques)・書籍 (34%) 絵葉書 (30%)
買い物の資金		114.6ユーロ *スペイン人 (€125.4)、ベルギー人 (€124.7)、フランス人 (€119.7) は貢献度が高いが、オランダ人 (€92.5)、ドイツ人 (€69.3) は貢献度が低い

(注) ディスク (des disque) と記載されているのは、CD (disque compact)、DVD (disque video) であり、レコード (disque noir) は該当しないと思われる。

(典拠) Paris Office du Tourisme et des Congrès, *Enquête sur les activités et les dépenses des touristes à Paris*, Juin-Juillet 2008, p. 6-11 et p.51 より作成

1-2. ヨーロッパ・フランスにおける観光空間パリ

パリ観光・会議局が公表するヨーロッパの都市別宿泊件数 ([表2-1]) を概観すると、フランスにおけるパリへの一極集中、ドイツにおけるベルリン、ミュンヘン、ハンブルクへの多極分散傾向が見られる。興味深いことにベルリン、ミュンヘン、ハンブルクの宿泊件数を合計するとパリ宿泊件数に匹敵する値となる。

表2-1 ヨーロッパにおける都市別宿泊件数（2007年）

都市名	宿泊件数
パリ	35,704,450
ローマ	20,244,694
ベルリン	17,294,163
プラハ	12,200,291
バルセロナ	11,678,955
ミュンヘン	9,533,035
アムステルダム	8,844,400
ハンブルク	7,402,423
ミラノ	7,145,513
ブダペスト	6,160,708

Office du Tourisme et des Congrès de Paris, *Observatoire économique du tourisme parisien: Le tourisme à Paris: Chiffres clés 2008*, p.19

「パリ観光・会議局」によるこのデータ公表方法は、意図的にいくつかの都市を除外するというバイアスが看守される。dwifによって公表されたデータを参考までに掲げると〔表2-2〕のようになる⁽⁶⁾。

これによるとロンドンがパリを上回る宿泊件数を示すほか、ダブリン、プラハなど〔表2-1〕には欠落している都市が見られるが、〔表2-2〕においてもベルリン、ミュンヘン、ハンブルクの合計がほぼパリの値と一致する傾向は変わらない。

表2-2 ヨーロッパにおける都市別宿泊件数（2009年）単位100万件

都市名	宿泊件数
ロンドン	71.7
パリ	33.9
ダブリン	19.8
ベルリン	18.9
ローマ	18.6
マドリード	13.7
バルセロナ	12.3
プラハ	11.0
ミュンヘン	9.9
ウィーン	9.9
アムステルダム	8.4
エジンバラ	8.3
ハンブルク	8.2
ミラノ	7.3
ストックホルム	6.3
リスボン	5.6

都市観光の定量比較

ブダペスト	5.4
ブリュッセル	5.2
フィレンツェ	5.1
コペンハーゲン	4.4

(典拠) Dwif, Übernachtungszahlen europäischer Metropolen 2009

21世紀のこれらの都市における宿泊件数の動向を〔表3〕において観察すると、ベルリン、ハンブルク、プラハが急速に増加を示している一方、パリ宿泊者数の増加率は控えめなことが分かる。観光都市として成熟したパリと発展途上にあるベルリン、ハンブルクの対比が観察される。

表3 2001年～2007年における宿泊件数の平均増加率

都市名	宿泊件数年平均増加率 (%)
パリ	1.3
ローマ	5.1
ベルリン	7.3
プラハ	7.0
バルセロナ	6.1
ミュンヘン	3.9
アムステルダム	1.5
ハンブルク	7.6
ミラノ	3.2
ブダペスト	3.2

(典拠) Office du Tourisme et des Congrès de Paris, *Observatoire économique du tourisme parisien: Le tourisme à Paris: Chiffres clés 2008*, p.19

フランスにおいて観光施設の生み出す雇用の地域構成は、フランス観光におけるパリへの集中を示す。〔表4〕によると、パリにおける雇用量が全体のおよそ14%を占め、パリを含めたイル・ド・フランスで31.4%を形成する。観光施設自体の立地を考察すると、パリおよびイル・ド・フランスの占有率は21%である。〔表5〕参照）フランス観光経済におけるパリの役割は決定的とわかっていよう。

表4 観光施設における雇用の地域内訳（2008年）
(repartition des emplois touristiques en France)

地域	比率 (%)
パリ	13.7
パリを除いたイル・ド・フランス	17.7
上記以外の地域	68.8

(典拠) Office du Tourisme et des Congrès de Paris, *Observatoire économique du*

tourisme parisien: Le tourisme à paris: Chiffres clés 2009, p.5

表5 観光施設の地域別内訳（公共部門を除く）（2008年）
 (repartition des établissements touristiques en france)

地域	比率 (%)
パリ	9.9
パリを除いたイール・ド・フランス	11.2
上記以外の地域	79

(典拠) Office du Tourisme et des Congrès de Paris, *Observatoire économique du tourisme parisien: Le tourisme à paris: Chiffres clés 2009, p.5*

1-3. 交通とパリ

パリに関する交通手段は、パリへの発着に関与する航空、鉄道 (SNCF) とパリ市内交通に与る RATP に大別できる。

前者は「パリ空港」(Aéroports de Paris) と総称する4つの空港と SNCF のターミナルである6駅およびこれと独立して集計されているユーロスター、タリスの統計がある。

表6 交通機関別乗降客数 (2008年)
 (単位 百万人)

(nombre de passagers)

パリ空港総数 (Aéroports de Paris)	86.1
シャルル・ド・ゴール (Paris-CDG)	59.7
オルリ (Paris-Orly)	26.4
ル・ブルジェ (Aéroport du Bourget)	0.1
ボーヴェ (Aéroport de Paris-Beauvais-Tillé)	2.2
鉄道幹線駅 (Gares de Paris, grandes lignes)	96.9
パリ・リヨン (Paris-Lyon)	29.3
パリ・モンパルナス (Paris-Montparnasse)	24.9
パリ北 (Paris-Nord)	12.3
パリ・サン・ラザール (Paris-Saint-Lazare)	11.0
パリ東 (Paris-Est)	10.6
パリ・オステルリッツ (Paris-Austerlitz)	8.8
ユーロスター (Eurostar) *	8.2
タリス (Thalys) **	6.0
パリ交通公団 (RATP) ***	2,873.0
メトロ (Métro)	1,388.3
高速郊外鉄道 (RER A-B) ****	446.6
バス (Réseau d'autobus)	951.8
トラム (Tramway)	79.8
オルリヴァル等 (Orlyval et voyages)	6.2

都市観光の定量比較

* 3 villes au départ de Paris (Londres, Ashford et Ebbsfleet)

** 14 villes et 1 aéroport au départ de Paris

*** Stations ou points d'arrêt en 2007 382, don't à Paris, 54 en banlieue

**** Les RER C, D sont gérés par la SNCF

(典拠) Office du Tourisme et des Congrès de Paris, *Observatoire économique du tourisme parisien: Le tourisme à Paris: Chiffres clés 2008*, p.6

パリにおける空港利用者は年間、8千6百万人余りで、その多くはシャルル・ド・ゴール空港あるいはオルリ空港を利用している。この2つの主要空港の利用者の変遷を[表7]で見る。シャルル・ド・ゴール空港乗降客がオルリを初めて上回ったのは1993年のことであった。それ以降、シャルル・ド・ゴールは着実に利用者を増し、現在では70%近い搭乗者が同空港を利用している。

一方、ボーヴェ空港は、「ヨーロッパ低運賃航空会社協会」(ELFAA)によって、パリにおける2つの主要空港(シャルル・ド・ゴール空港およびオルリ空港)に対する副次的空港として位置づけられている⁽⁷⁾。ボーヴェ空港年間利用者は、2009年には250万人へと増加し、同空港は12カ国29都市と連絡している⁽⁸⁾。2010年夏期スケジュールによると⁽⁹⁾、直行便のほとんどがライアンエアによって運行されている。LCCと大都市の副次的空港の密接な関係は、周知の事実である⁽¹⁰⁾。

表7 パリ主要空港利用者の変遷

CDG+Orly, hors transit

	旅客数 (単位、100万人)	Roissy-CDG (%)	Orly (%)
1990	46.8	48.1	51.9
1991	45.3	48.5	51.5
1992	50.4	50.0	50.0
1993	51.5	50.7	49.3
1994	55.3	51.9	48.1
1995	55.1	51.5	48.5
1996	59.1	53.6	46.4
1997	60.4	58.4	41.6
1998	63.7	60.8	39.2
1999	69.0	63.2	36.8
2000	73.7	65.5	34.5
2001	71.0	67.6	32.4
2002	71.6	67.6	32.4
2003	70.7	68.2	31.8
2004	75.4	68.2	31.8
2005	78.3	68.3	31.7
2006	82.2	68.9	31.1
2007	86.1	69.3	30.7
2008	86.9	69.9	30.1

2009	82.9	69.7	30.3
------	------	------	------

(典拠) Office du Tourisme et des Congrès de Pairs, *Observatoire économique du tourisme parisien, Le tourisme à paris: Chiffres clés 2006*, p.7, Office du Tourisme et des Congrès de Pairs, *Observatoire économique du tourisme parisien, Le tourisme à paris: Chiffres clés 2008*, p.7 et Office du Tourisme et des Congrès de Pairs, *Observatoire économique du tourisme parisien, Le tourisme à paris: Chiffres clés 2009*, p.6をもとに作成。

ところで、『パリ観光——主要数値——』2008年版は、パリの空港において、「ほんのここ数年で低運賃航空会社が広範な発展をした」(En seulement quelques années, les companies aériennes à bas coût se sont largement développées.)⁴¹⁾と指摘して、[表8]の数値を記載している。

表8 パリに発着する低運賃航空会社数

年度	パリの空港に寄港するLCCによって結ばれる都市数
2004	47
2005	126
2006	143
2007	145
2008	178

(典拠) Office du Tourisme et des Congrès de Pairs, *Observatoire économique du tourisme parisien, Le tourisme à paris: Chiffres clés 2008*, p.7

フランス航空業およびフランス司法当局は、LCCを厳しく排除してきたが⁴²⁾、現在ではパリにおいてすら、低運賃航空会社を無視できない状況であることを[表8]は示している。

SNCFのターミナルを利用する鉄道乗降客においては、地中海方面と連絡するリヨン、フランス西部と結ぶモンパルナスが年間2,000万以上を集め、ベネルックスやドイツと連絡する北駅、東駅は前者の半数である。ターミナルの中で、オルレアンを経由してボルドーと結ぶオステルリッツの利用者は最も少ない。ここでは、イギリスと結ぶユーロスター、北西ヨーロッパと連絡するタリスは独立した項目で集計されている⁴³⁾。

パリ市内交通手段はRATPが担当し、とくにメトロが突出した数値を示す。([表6]参照)

1-4. パリの外国人旅行者

2009年度におけるホテル宿泊者数においては、外国人がフランス人を大幅に上回っている。フランス人を上回る外国人旅行者が見られる状態は、2000年に遡っても変化はない。

外国人宿泊者の国籍別順位の変動を見ると、以下のようになる。外国人旅行者の内訳において

都市観光の定量比較

順位の変動があり、特に日本人旅行者は、2000年における第3位から2009年には6位へと大きな低下を示した。この間の動きを絶対数において考察すると、フランス人宿泊者が微増したのに対して、外国人のそれは大幅な減少をみた。そのうち、アメリカ人と日本人の減少が際立っている¹⁴⁾。

表9 パリにおけるホテル宿泊者の国籍別内訳

2009年		2000年	
フランス人	6,510,996	フランス人	6,386,200
外国人	7,905,399	外国人	9,013,600
アメリカ合衆国	1,224,975	アメリカ合衆国	2,134,100
イギリス連邦	1,108,017	イギリス連邦	1,384,300
イタリア	725,688	日本	861,000
スペイン	603,054	イタリア	714,200
ドイツ	567,979	ドイツ	570,200
日本	499,350	スペイン	461,300
ベルギー	290,108	オセアニア	328,000
オランダ	281,013	南米	272,000
スイス	244,513	ベルギー	257,800
中近東	214,856	オランダ	248,500

(典拠) Office du Tourisme et des Congrès de Paris, *Observatoire économique du tourisme parisien, Le tourisme à paris: Chiffres clés 2006*, p.12 et Office du Tourisme et des Congrès de Paris, *Observatoire économique du tourisme parisien, Le tourisme à paris: Chiffres clés 2009*, p.18

「パリ観光・会議局」の『月報』(2010年2月)においては、日本人が戻ってきたこと (la reprise des japonais) を特記している。これによると、2010年2月期においては、国籍別宿泊者順位がイギリス人 (前年同期比、-18.3%)、イタリア人 (同、+10.4%)、日本人 (同、+24.7%)、アメリカ人 (同、-18.8%)、スペイン人 (同、-6.9%) となっている¹⁵⁾。これは、わが国発航空運賃の安い当期のみの例外的・一時的数値であろう。

2. ベルリン観光

2-1. 観光空間ベルリン

2-1-1. ベルリンとブランデンブル

ベルリンとそれを取り巻くブランデンブルク州を仮にひとつの空間と想定し、ベルリンへの宿泊の集中度を考察するために、〔表10〕、〔表11〕を作成した。宿泊施設の立地を示す〔表10〕は、

ベルリンへの集中が3割程度であることを伝えている。その中で、ホテル・ガルニは著しくベルリンに偏在している。宿泊件数を基準とする〔表11〕で確認すると、ホテル、ホテル・ガルニの宿泊者がベルリン市に集中的に滞在していることが分かる。

上記の視点では、「フランスにおけるパリ」に相当するのが「ベルリン・ブランデンブルクにおけるベルリン」である。

表10 ベルリンとブランデンブルクにおける宿泊施設の分布
2009年7月末（単位%）

	ベルリン / ベルリン・ブランデンブルク	ブランデンブルク / ベルリン・ブランデンブルク
開業中の宿泊施設	30.99	69.00
内訳		
ホテル	29.40	70.59
ガストホフ	5.37	94.62
ペンション	28.52	71.47
ホテル・ガルニ	76.90	23.09
その他	19.40	80.59

（典拠）Amt für Statistik Berlin Brandenburg, Basisdaten,2009

表11 ベルリンとブランデンブルクにおける宿泊件数の分布
2009年度（単位%）

	ベルリン / ベルリン・ブランデンブルク	ブランデンブルク / ベルリン・ブランデンブルク
開業中の宿泊施設	64.79	35.20
内訳		
ホテル	70.96	29.03
ガストホフ	5.62	94.37
ペンション	46.55	53.44
ホテル・ガルニ	92.14	7.85
その他	39.71	60.28

（典拠）Amt für Statistik Berlin Brandenburg, Basisdaten,2009 より作成

2-1-2. ベルリン市内の宿泊状況

ベルリン市内に宿泊する旅行者は、ミッテ区、シャルロッテンブルク・ヴィルマースドルフ区、フリードリヒシャイン・クロイツベルク区など中心部への集中が見られる。（〔表12〕参照）

表12 ベルリン市内の宿泊区域別に見た宿泊者数

区 (Bezirk)	ドイツ居住者	外国居住者
Mitte	1,778,110	1,171,431

都市観光の定量比較

Friedrichshain-Kreuzberg	703,172	307,543
Pankow	290,489	162,327
Charlottenburg-Wilmersdorf	1,140,782	692,162
Spandau	172,085	38,986
Steglitz-Zehlendorf	146,374	29,151
Tempelhof-Schöneberg	306,614	206,820
Neukölln	201,073	52,982
Treptow-Hellersdorf	182,921	51,467
Marzahn-Hellersdorf	52,534	10,977
Lichtenberg	218,899	97,463
Reinickendorf	189,459	59,350

(典拠) Amt für Statistik Berlin-Brandenburg, Statistischer Bericht G IV 1-m 12/09, Dezember 2009, p.10-11

ベルリンの宿泊施設を規模別に収容能力をみると、ベッド数 250 以上の施設が半数以上の供給能力を示していることが分かる。(〔表 13〕参照)

表 13 ベルリン宿泊施設（ホテル、ホテル・ガルニ、ガストホフ、ペンション）における規模別ベッド数

ベッド数	経営中の宿泊施設	供給ベッド
29 以下	128	2,527
30 ~ 99	221	12,557
100 ~ 249	124	19,054
250 ~ 499	69	23,473
500 以上	42	31,635
合計	584	89,246

(典拠) Amt für Statistik Berlin-Brandenburg, *Statistische Bericht* G IV 1-m 12/09, Dezember 2009, p.9

さらに〔表 14〕において宿泊施設の種類を基準に考察すると、ホテル・ガルニが最も多数を占めているが、供給ベッド数においては、ホテルが全体の 53% に達している。このことから、ベルリンの宿泊施設事情は、規模の大きいホテルを中心とする大都市型と判断できる。

表 14 ベルリン宿泊施設の種類別分布

	経営中の宿泊施設	供給ベッド
ホテル	193	57,006
ホテル・ガルニ	286	29,227
ガストホフ	13	268
ペンション	92	2,745

その他 (内訳)		
Jugentherberge u.a. Betriebe	137	17,836
Erholungs-, Ferien-, Schulungsheime, Vorsorge- u. Rehakliniken	78	12,807
Ferienzentrum, -häuser, -wohnungen	29	2,191
	30	2,838

(典拠) Amt für Statistik Berlin-Brandenburg, *Statistische Bericht G IV 1-m 12/09*, Dezember 2009, p.9

2-2. 交通とベルリン

ベルリンの玄関ともいえる空港施設においては、テンペルホフ空港の閉鎖、テーゲル空港の閉鎖予定、シェーネフェルト空港の拡充によるベルリン・ブランデンブルク空港の開設が目前に迫った⁶⁶⁾。

また、長距離鉄道輸送においては東西、南北の結節点としてのベルリン中央駅が2006年5月26日に開業している⁶⁷⁾。

2-2-1. ベルリン・ブランデンブルク空港の開設

2011年10月30日に予定されているベルリン・ブランデンブルク空港の開設によってベルリン市内およびブランデンブルク州の各地からの交通改善が計画されている。

(1) 空港快速 (Flughafen-Express)

空港快速は、ベルリン中央駅と空港をおよそ30分で結ぶ。

(2) Sバーン

Sバーンは現在の終点シェーネフェルトから空港まで延伸し、10分間隔のタクト運転を行う。ブランケンブルク (Blankenburg) からオストクロイツ (Ostkreutz) を経由して空港 (Flughafen) にいたるS9とジユドクロイツ (Südkreutz) からジユドリント (Südring) を経由して空港ターミナル (Flughafen-Terminal) にいたるS45が運行される。

(3) RB22

ポツダムから地域列車 (RB22) が1時間間隔で空港まで運行され、2011年12月からスピードアップする。

(4) 東方との連絡

2012年には空港駅から東方への接続区間が開通することによって、地域快速 (RE7) および地域列車 (RB14) は、現在のシェーネフェルト駅ではなく空港駅から運行されるようになる⁶⁸⁾。

2-2-2. ベルリン市内交通機関

ベルリン市内の交通機関は、Sバーン、Uバーン、路面電車、バスと多面的である。

都市観光の定量比較

なお、旧西ベルリンにおいては路面電車は1970年代に廃止され、現存する路面電車はすべて旧東ベルリン地域である¹⁹⁾。

表 15 ベルリン近距離交通乗客数 (2008年)
(単位 1,000人)

交通機関	輸送乗客数 (1,000人)
Sバーン	388,100
路面電車およびUバーン	603,605
路線バス	349,638

(典拠) Amt für Statistik Berlin-Brandenburg, *Statistisches Jahrbuch Berlin 2009*, p.382

2-3. ベルリンの外国人旅行者

[表 16] によればベルリンにおける宿泊者に関して、ドイツ居住者が65%を占め、国内旅行者によってベルリン観光が成り立っていることを示している。

外国人旅行者について、2006年度と比較すると以下のことが分かる。

- (1) いずれにおいても、イギリスからの旅行者が首位であることに変化はない。
- (2) この間、順位の低下が見られたのは、日本とアメリカ合衆国であった。
- (3) 絶対数が低下したのは、日本とイギリスのみである。
- (4) 特に増加が大きかったのは、ギリシャ (188%)、ロシア (178%)、ポーランド (163%)、デンマーク (150%)、スペイン (141%) であったが、ヨーロッパ全体に増加を示した。

表 16 ベルリンにおける宿泊者

2009年		2006年	
ドイツ居住者	5,382,512	ドイツ居住者	4,755,206
外国居住者	2,880,659	外国居住者	2,322,069
イギリス	288,497	イギリス	300,747
イタリア	252,211	アメリカ合衆国	215,047
オランダ	238,712	オランダ	193,278
アメリカ合衆国	238,403	イタリア	182,477
スペイン	192,305	スペイン	136,174
デンマーク	184,410	デンマーク	123,168
フランス	157,633	スイス	116,369
スイス	144,757	フランス	103,133
スウェーデン	103,725	スウェーデン	84,561
オーストリア	95,493	オーストリア	74,050
ロシア	71,412	日本	61,110

ベルギー	65,948	ノルウェー	52,370
ポーランド	67,504	ベルギー	49,325
ノルウェー	58,265	ポーランド	41,479
ギリシャ	53,505	ロシア	40,157
イスラエル	47,321	イスラエル	38,303
オーストリア	45,385	オーストリア	35,715
日本	43,144	ギリシャ	28,465

(典拠) Amt für Statistik Berlin-Brandenburg, *Statistischer Bericht G IV 1/GIV 2-m 12/06*, Dezember 2006, p.9-11 et ibidem G IV 1-m 12/09, Dezember 2009, p.7-8 より作成

なお、外国からの観光客について、一般にドイツの統計においては居住地 (Wohnsitz) が基準となる。すなわち、国籍にかかわらずどの国からの (Herkunftsland) 旅行者であるかで分類される。一方、フランスの統計においてはフランス人 (français) であるか外国人 (étranger) であるかを基準に分類されている。

3. ミュンヘン観光

3-1. 『ドイツ観光品質モニター』におけるミュンヘン観光客アンケート

ERV (Europäische Reiseversicherung) と DTZ (Deutsche Zentrale für Tourismus e.V.) による共同企画アンケート調査『ドイツ観光品質モニター』(Qualitätsmonitor Deutschland-Tourismus) は、2007年5月から2008年4月にかけて最初のアンケート調査が行われたが、ミュンヘン市観光局 (DasTourismusamt München) は、これに最初から参加した²⁰⁾。

ミュンヘン市に関してこのアンケート調査が示しているのは、〔表17〕～〔表19〕のようになる。

表17 ミュンヘン市を「休暇目的地」(Urlaubsziel) に選んだ決定的理由。(複数回答可。)

芸術・文化を楽しむ (Kunst- & Kulturangebot)	82%
名所旧跡 (Sehenswürdigkeiten)	81%
風景・建造物 (Ortsbild/Architektur)	75%
友人・知人の薦め (Empfehlung Freunde/Bekannte)	60%
イメージ (Image Destination)	52%
風土 (Land & Leute)	52%
買い物 (Einkaufsmöglichkeiten)	51%

都市観光の定量比較

各種の楽しみ (Vielfalt des Angebotes)	46%
催し物・イベント (Veranstaltungen & Events)	42%
独特の雰囲気 (Atmosphäre/Flair)	41%

(典拠) Landeshauptstadt München, Referat für Arbeit und Wirtschaft, Tourismusamt, *Jahresbericht 2009*, p. 11

表 18 ミュンヘン市滞在中に行った行動

街の散策 (Flanieren/Bummeln)	99%
名所旧跡の訪問 (Sehenswürdigkeiten besuchen)	93%
レストラン (Restaurant)	90%
買い物 (Shopping)	88%
カフェの訪問 (Besuch Kaffeehaus/Café)	70%
ナイトライフ (Nachtleben)	57%
美術館・展覧会 (Museen/Ausstellungen)	53%
自然の散策 (Spazieren (Natur))	48%
地元の料理・飲み物 (Typ. Speisen/Getränke)	46%
ハイキング (Individuelle Ausflüge)	26%

(典拠) Landeshauptstadt München, Referat für Arbeit und Wirtschaft, Tourismusamt, *Jahresbericht 2009*, p. 11

表 19 旅行の同行者

一人 (Allein)	11%
夫婦・カップル ((Ehe-) Partner (in))	70%
ツアー・グループ (organisierte Reisegruppe)	19%
家族 (Familienangehörige)	14%
友人・同僚 (Freunde/Arbeitskollegen)	32%
子連れ (mit Kindern (unter 14))	7%

(典拠) Landeshauptstadt München, Referat für Arbeit und Wirtschaft, Tourismusamt, *Jahresbericht 2009*, p. 11

3-2. 観光空間ミュンヘン

バイエルン宿泊者の44%がオーバーバイエルンに宿泊し、オーバーバイエルン宿泊者の42%がミュンヘンに宿泊している。バイエルンとオーバーバイエルン、オーバーバイエルンとミュンヘンとの関係は緩やかな結びつきを持った面と考えられるであろう。

表 20 2009 年度宿泊者にみるミュンヘン観光空間

A バイエルン宿泊者数	B オーバーバイエルン宿 泊者数	C ミュンヘン宿泊者数	B/A (%)	C/B (%)
26,360,053	11,641,051	4,983,632	44.16	42.81

(典拠) Bayern Tourismus Marketing GmbH, Tourismus in Bayern Januar bis Dezember 2009 et Landeshauptstadt München, Referat für Arbeit und Wirtschaft, Tourismusamt München, Ankünfte Januar mit Dezember 2009 より作成

3-3. ミュンヘンにおける宿泊者数

ミュンヘン宿泊者においては、ドイツ居住者が57.72%、外国居住者が42.28%であり、バルリ
ンと比較して外国からの旅行者の比率が高い。

外国居住者について2009年度の値を2002年度と比較すると、順位に大きな変動は見られない。
アメリカ合衆国からの旅行者が最も多く、イタリア、イギリス、スイス、オーストリアがそれに
次いでいる。そのなかで、日本からの旅行者が実数においても順位においても大幅な下落を示し
たことが顕著な特徴である。

表 21 ミュンヘンにおける宿泊者数

2009 年		2002 年	
ドイツ在住者	2,876,630	ドイツ在住者	2,030,874
外国居住者	2,107,002	外国居住者	1,417,725
アメリカ合衆国	283,934	アメリカ合衆国	232,337
イタリア	253,056	イタリア	162,847
イギリス	174,439	イギリス	150,141
スイス	159,210	スイス	114,051
オーストリア	143,333	オーストリア	92,161
スペイン	94,927	日本	68,975
フランス	81,056	フランス	58,688
湾岸諸国	77,949	スペイン	53,688
ロシア	74,899	オランダ	38,690
オランダ	59,841	ロシア	23,690
日本	58,173	中国	25,872
オーストラリア	44,501	カナダ	20,826
中国	38,601	大韓民国	19,908

(典拠) Landeshauptstadt München, Referat für Arbeit und Wirtschaft, Tourismusamt, *Jahresbericht 2009*, p. 8 et Landeshauptstadt München, Referat für Arbeit und Wirtschaft, Fremdenverkehrsamt, *Jahresbericht 2002*, p.6-7

4. ハンブルク観光事情

4-1. 観光空間ハンブルク

都市州ハンブルクの観光について考察するにあたり、隣接するシュレスヴィヒ・ホルシュタイン州にも簡単に触れる。

ハンブルクにおいて開業中のホテルが303軒であり、ベッド数が39,709床であることから、1宿泊施設あたりのベッド数は131床と考えられる。このことから、ハンブルクの宿泊施設は都市型の比較的規模の大きいホテルが中心であろう。

これに対してシュレスヴィヒ・ホルシュタインの宿泊施設においては、1施設あたりのベッド数は41.4に過ぎない。また、宿泊施設の立地においては北海、バルト海の海浜リゾート地が半数を占めているほか、さまざまな保養地に立地する施設がほとんどである。

従って、大都市ハンブルクと保養地シュレスヴィヒ・ホルシュタインとは、全く独立した観光空間と定義できる。

表 22 ハンブルクとシュレスヴィヒ・ホルシュタインの宿泊施設

	開業している宿泊施設	ベッド数
ハンブルク（2009年7月31日）現在	303	39,709
シュレスヴィヒ・ホルシュタイン（2009年7月1日現在） ゲマインデの特性による分布	4,308	178,395
Heilbäder	120	6,913
Seebäder	2,676	113,541
Nordsee	1,581	56,903
Ostsee	1,095	56,638
Luftkurorte	123	5,947
Erholungsorte	567	17,223
その他のゲマインデ	822	34,771
大都市*	98	7,881

（典拠）Statistisches Amt für Hamburg und Schleswig-Holstein, Statistischer Bericht G IV 1-m 4/10 H et ibid., G IV 2-j/09 S より作成

* 大都市に含まれるのはリュベック、キール。Travemünde は含まない。

ハンブルク宿泊者においては、ドイツ居住者が81.54%を占め、外国居住者は18.46%でしかない。ベルリン以上に国内旅行の目的地と考えられる。

外国人旅行者について、2004年度と比較すると以下のことが分かる。

- (1) 国別順位において、アメリカ合衆国、スウェーデン、日本、フランスが順位を下げた。
- (2) 逆に順位を上げたのはデンマーク、オーストリア、ロシアであり、
- (3) このうち、とくにデンマークとオーストリアの増加率（いずれも 211%）が際立っている。

表 23 ハンブルクにおける宿泊者

2009 年		2004 年	
ドイツ居住者	3,561,446	ドイツ居住者	2,628,426
外国居住者	806,275	外国居住者	618,622
イギリス	82,204	イギリス	71,546
デンマーク	76,652	スイス	46,153
スイス	73,392	アメリカ合衆国	42,728
オーストリア	69,761	デンマーク	36,326
アメリカ合衆国	55,570	フランス	36,264
オランダ	54,828	スウェーデン	35,501
フランス	50,611	オランダ	34,576
スウェーデン	31,528	オーストリア	33,071
イタリア	29,445	イタリア	24,793
スペイン	28,885	スペイン	20,085
ノルウェー	19,045	日本	17,454
ロシア	17,440	ノルウェー	17,054
ベルギー	16,129	ベルギー	14,902
フィンランド	14,276	中国	13,182
中国	13,487	フィンランド	13,304
日本	12,693	ロシア	12,872

(典拠) Statistisches Amt für Hamburg und Schleswig-Holstein, *Statistische Berichte* G IV 1-m 12/09 H, 4. März 2010, p. 2 et ibidem, G IV 1-m 12/04 H, 3. März 2002, p. 2

大都市ハンブルクにおけるホテル建設ラッシュを〔表 24〕に見ることができる。2つ星、3つ星、4つ星ホテルの新規開業が相次ぎ、とくに高級な4つ星ホテルの開業が著しい。

表 24 ハンブルクにおけるホテル新規開業数

年度	ホテルランク (星)					
	0	1	2	3	4	5
2002	1			2	1	
2003	1	1	2		1	5
2004		1		1	2	
2005			1		2	
2006			2		1	1
2007			2	2	4	1
2008			4		3	

都市観光の定量比較

2009			1	2	4	
2010			2	1	3	

(典拠) Hamburg Tourismus, Hotelprojekte in Hamburg, in interrete sub: <http://www.hamburg-tourism.de/business-presse/zahlen-fakten/tourismusstatistiken>, 29.06.2010

小括

以上の分析をもとに明らかとなった点をまとめる。

フランスにおける観光施設はその1割がパリに集中していた。([表5]) これに対して、ドイツの都市においては、観光空間はどのように評価できるのであろうか。ベルリンに関しては、「ベルリン+ブランデンブルク空間」の宿泊施設のうち、65%がベルリンへ集中していることを確認できた。([表11]) 観光空間としてのミュンヘンはオーバーバイエルンと緩やかに結びついている。([表20]) 一方、ハンブルクは観光空間として独立性が高いことが確認できた。

次に旅行者の居住地・国籍を再確認する。外国人観光客を引きつけている観光地は、なんといつでもパリであり、ミュンヘンがこれに次ぐ。([表25] 参照)

表 25 宿泊者に占める外国人比率

都市	外国人宿泊者 / 宿泊者総数 (%)
パリ	54.84
ベルリン	34.86
ミュンヘン	42.28
ハンブルク	18.46

(典拠) [表9]、[表16]、[表21] および [表23] を基に算出

外国からの旅行者で最も多数を占める者をまとめると「パリのアメリカ人」、「ベルリンのイギリス人」、「ミュンヘンのアメリカ人」、「ハンブルクのイギリス人」となり、アングロサクソンが首位にある。

なお、いずれの都市においても日本からの観光客が激減していることを付け加えたい。

注

- (1) Office du Tourisme et des Congrès de Paris, *Observatoire économique du tourisme parisien: Le tourisme à Paris: Chiffres clés 2006 ~ 2009*
- (2) Office du Tourisme et des Congrès de Paris, *Paris en chiffres*
- (3) 『パリ観光客の行動と支出に関するアンケート』(Paris Office du Tourisme et des Congrès, *Enquête sur les activités et les dépenses des tourists à Paris*, Juin-Juile 2008) がそれである。この調査は、2001年、

- 2002年、2003年に続いて2008年6月7日から7月11日に第4回目を実施した。(ibid., p.5) 回答協力者(400名)の内訳は、フランス人200名、ドイツ人40名、イタリア人47名、スペイン人48名、ベルギー人18名、オランダ人16名、その他のヨーロッパ人31名であった。(ibid., p.4)
- (4) アンケートにおいて、バトー・パリジャン (Bateau Parisiens)、ヴェット・デュ・ポン・ヌフ (Vedettes du Pont Neuf) はバトー・ムッシュ (Bateau Mouches) と無差別に回答されていると思われる。ここでいうバトー・ムッシュはセヌ川クルーズと理解すべきであろう。
 - (5) ドイツ人に関して次のようなこれとは異なった評価もある。エクスペディア (Expedia) が世界27カ国、4,500人のホテル経営者に対して行った顧客調査によると、「風評は覆された。ドイツ人はけちではない」(Gerücht widerlegt: Die Deutschen sind keine Gaizhalse) (Expedia.de., Pressemitteilungen, 08.07.2009)
 - (6) dwifとは、1950年ミュンヘン大学に設置されたドイツ観光経済研究所 (das Deutsche Wirtschaftswissenschaftliche Institut für Fremdenverkehr an der Universität München (略称、dwif e.V.) の100%子会社である。(Die dwif-Consulting GmbH, Das Unternehmen, in interrete sub: <http://www.tourist.level9.de/de/netzwerk/dwif-consulting-gmbh.html>, 06.07.2010)
 - (7) 拙著『ドイツ資本主義と空港』日本経済評論社、2009年、27ページ
 - (8) Office du Tourisme et des Congrès de Paris, *Observatoire économique du tourisme parisien, Le tourisme à paris: Chiffres clés 2009*, p.6
 - (9) Aéroport international de Beauvais, *Guide horaires été 2010*
 - (10) ライアンエアについては拙著『ドイツ資本主義と空港』参照。また、同27ページ。
 - (11) Office du Tourisme et des Congrès de Paris, *Observatoire économique du tourisme parisien: Le tourisme à paris: Chiffres clés 2008*, p.7
 - (12) 拙著『ドイツ資本主義と空港』
 - (13) パリ・ベルシー駅 (Gare de Paris-Bercy) は始発駅ではあるが、リヨン駅に含めて集計されている。
 - (14) なお、2008年度においては、イギリス人宿泊者はアメリカ人宿泊者を上回っていた。(Office du Tourisme et des Congrès de Paris, *Observatoire économique du tourisme parisien, Le tourisme à paris: Chiffres clés 2008*, p.18)
 - (15) Office du Tourisme et des Congrès de Paris, *Paris en chiffres*, 04.2010 #50 なお、2010年1～4月期における同数値の合計は、日本人宿泊者が6位であることを示している。(Office du Tourisme et des Congrès de Paris, *Paris en chiffres*, 06.2010 #52)
 - (16) 拙著『ドイツ資本主義と空港』
 - (17) Berlin Hauptbahnhof, Bahnkonzept für Berlin, in interrete sub: http://www.hbf-berlin.de/site/berlin_hauptbahnhof/de/bahnkonzept_fuer_berlin/bahnkonzept_fuer_berlin.html, 15.07.2010 et Berlin Hauptbahnhof, Chronik, in interrete sub: http://www.hbf-berlin.de/site/berlin_hauptbahnhof/de/bauprojekt/chronik/chronik.html, 15.07.2010

都市観光の定量比較

- (18) Verkehrsverbund Berlin-Brandenburg (VBB), Presseinformation, 17.März 2010
- (19) この点について、早稲田大学助手、渡邊徹氏からご教示いただいた。
- (20) Landeshauptstadt München, Referat für Arbeit und Wirtschaft, Tourismusamt, *Jahresbericht 2009*, p.11